

各学校でプール開きとなりました。気温の上昇により熱中症などの対策も重要となります。学校薬剤師関連の情報提供をいたします。

～教職員の方にお渡ししたり等ご活用ください。 横浜市薬剤師会学校薬剤師部会作成～

## 1. プール検査について

昨年の横浜市立学校プール検査対象校502校中、62校(12%)で一般細菌が基準以上検出され、36校(7%)で大腸菌が検出されました。

水質基準：一般細菌は200コロニー/ml以下、大腸菌は検出されないこと

大腸菌が検出された学校の31校が、一般細菌も検出されています。これらの学校のほとんどが残留塩素濃度0.4mg/L未滿が多く、残留塩素濃度の低さから消毒ができていなかったことが考えられます。プール検査の際、残留塩素濃度が低い場合はすぐに塩素を追加投入してもらい、再度残留塩素濃度の測定をするようにお願いします。

大腸菌が検出された、あるいは一般細菌が基準を超えた場合には各区に中間報告を送っていますので、入泳前のシャワーの徹底や塩素管理等の助言を行ってください。

プール管理において残留塩素濃度(0.4mg/l以上1.0mg/l未滿)の管理が最も重要になります。残留塩素濃度は紫外線量や水温上昇、雨による有機物の流入等の天候により低下します。又、pH濃度にも影響を受けますので、補給水量等にも注意して管理してください(一般的に晴天時の残留塩素濃度は、紫外線により10分間で0.1～0.2mg/lが分解消失、水温による影響は30℃前後で0.05mg/l、40℃で0.07mg/lが消失するとされています)

## 2. 夏場、光化学スモッグ注意報が出た時の対応 健康被害の症状は...

- (1) 目の症状(目がチカチカする、目が痛い、涙が出る等)
- (2) 呼吸器の症状(喉が痛い、せきが出る、息苦しい等)
- (3) その他の症状(吐き気、頭痛等)

これらの症状の大部分は比較的軽症の一過性のものであり、被害の発生場所は屋外がほとんどです。重い症状を訴えるのは、多くの場合、屋外での運動中の被害ですが、同じ状況にあっても症状がでない人もあり、個人差があります。

## 光化学スモッグが発生したときは...

光化学スモッグの健康被害者は、子供たちに多いのが特徴です。子供たちの健康被害を未然に防ぐため、次のことを実行してください。

- (1) 病弱な子供及び当日体の調子が悪い子供は屋内で休ませてください。
- (2) 過激な運動はなるべく避けてください。
- (3) なるべく窓を閉めてください。

## 3. 今年暑さの到来が早い(環境省HPより)

6都市(東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市)平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、6月8日頃から高い傾向が続いています。例年よりも早めに暑さにさらされています。

体が暑さに慣れていないこの時期は、真夏よりも低い温度でも熱中症が発生しやすくなりますので、十分な暑さ対策を心がけてください。

熱中症を引き起こす条件は、「環境」と「からだ」と「行動」によるものが考えられます。

「環境」の要因は、気温が高い、湿度が高い、風が弱いなどがあります。

「からだ」の要因は、激しい労働や運動によって体内に著しい熱が生じたり、暑い環境に体が十分に対応できないことなどがあります。

その結果、熱中症を引き起こす可能性があります。

## 熱中症を予防するにはどうしたらよいの？

- ・無理をせず徐々に身体を暑さに慣らしましょう
- ・室内でも温度を測りましょう
- ・体調の悪いときは特に注意しましょう

涼しい服装



日陰を利用



日傘・帽子



水分・塩分補給

